

炭素循環と窒素循環

「先生、質量分析装置で測定したら、目的錯体よりも 44 (m/z) 分子量が大きいピークが出たんですけど、これってどういうことでしょうか？」という学生さんの質問で、私の CO_2 の研究が始まったように思います。ルテニウムのアルコキシド錯体($[\text{Ru}]\text{-OR}$)を合成する際、空気中の CO_2 を取り込んでカーボネート錯体($[\text{Ru}]\text{-OC(O)OR}$)になったのですが、このようなアルコキシド錯体への CO_2 の取り込み（挿入）反応は知られていません。しかし、空気中で攪拌させているだけで微量の CO_2 を取り込むため、自分自身は非常に興味深いと思いました。・・・